# 令和元年度 第33回 山﨑賞助成金伝達式 挨拶

令和元年6月23日（日）

山﨑研究助成を受けられる皆さん、おめでとうございます。皆さんの旺盛な探究心と熱意に、まずもって敬意を表します。

また、本日は御多忙の中、県教育委員会教育部長鈴木一吉様、選考委員長鈴木真人様をはじめ多くの方々の御臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

伝達式に当たり、２つのことをお話し、あいさつに代えたいと思います。

ひとつは、昨年度、この研究助成と山崎賞を受賞した研究についてです。

きょうも後輩の皆さんが助成を受けられますが、掛川西高等学校３年の岡本優真（ゆうま）君と塚本颯（そう）君の研究についてです。二人は、「空中DNAを使った鳥類調査方法の確立」というテーマで研究に取り組み、国内大会だけでなく、世界大会においても、非常に高い評価を受けました。専門家からは、「鳥インフルエンザウィルスの検出などに応用が期待できる独創性・学術性の高い研究」と称賛されました。

岡本君・塚本君の「失敗を重ねながらも　新しい手法を確立でき、高い評価を得られたのはうれしい。さらに、研究を続けて完成度を高めたい」という言葉や「世界から人が集まる場で発表できて興奮した。英語力をもっと高めたいと感じた」という現状に満足しない前向きな言葉を、これから研究を進める皆さんの背中を押す言葉として贈りたいと思います。

いまひとつは、「想像力」ということです。

皆さんは、研究を始めるに当たって、「こうすれば、こうなるのではないか」、「この現象は、このことが原因ではないか」などといった仮説を立てますね。また、研究を進めていく中でも、様々な想像力を働かせて、実験方法を工夫したり、時には、仮説を修正したりすると思います。

研究は、想像力を発揮する場面で満ち溢れています。そして、想像力が豊かであればあるほど、仮説は磨かれ、仮説を裏付ける研究成果が得られることにもつながっていくのだと思います。

この「想像力を働かせる」ということは、科学研究の分野だけではなく、私たちが生活していく上でも、とても大切なことだと思っています。自分の言葉や行動（言動）が、相手にどう伝わるのかを想像すること、それは、相手の立場に立ち、相手を大切にし、相手を慮ることだと思います。最近の悲しい・痛ましい出来事を見聞きするたびに、「もし、自分が言われる立場、される立場であったら、どんな気持ちになるのだろう」という想像力が足りないのではないかということを強く感じてしまいます。

皆さんには、研究を進めていくという経験を通し、豊かな「科学的想像力」を培ってほしいと願っています。そして、その想像力が、相手の立場に立って考えられる、相手の気持ちを推し量れる温かな「人間的想像力」にもなってほしいと願っていますし、そうなるものと、確信しています。

来年の２月、研究成果を携え、一回り成長した皆さんの姿に、ここでまた、会えることを楽しみにして挨拶に代えます。本日は、おめでとうございます。

公益財団法人 山﨑自然科学教育振興会
代表理事 安　倍　　徹